

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
国際看護論		BNNSS7L18	30208	4前	1(30)	必修
担当教員	千葉 陽子	実務歴	有	助産師として病院に6年勤務 助産師・看護師(JICA技術協力専門家など)として、海外の助産所や専門機関に従事		
担当教員	武田 未央	実務歴	有	看護師として病院に7年勤務 保健師として保健センター等に5年、海外の専門機関に2年勤務		
概要	社会のグローバル化に伴い、対象の多様な価値観や文化的背景を尊重した関わりがますます重要になってきている。このような中、国内・外の様々な健康課題とその背景をとらえ、広い視野をもって看護を行うことの必要性を理解する。また日本の医療保健分野における国際協力の仕組みと、国際機関・民間団体の国際協力活動と現状について学び、国際支援のあり方を知る。そして、国内での看護の国際化にも目を向けながら、現代社会における看護の課題と展望を考察していく。					
学修目標	1) 看護を実践する上で国際的な視野をもつことの必要性を述べるができる。 2) 世界規模の健康問題を挙げてわが国との共通点や違いを説明できる。 3) 国際協力の仕組みと看護の役割を説明できる。 3) 多様な文化的背景を持つ対象への看護者の態度について説明できる。					
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	◎
回	学修内容			予習・復習内容		
1	オリエンテーション、国際看護学の概念(千葉)			事前に「国際看護」に対して抱くイメージを自由にまとめておく。①p.12～17を講義前後に読むこと。		
2	世界の健康問題(千葉)			①p.20～34を講義前後に読むこと。		
3	国際看護学各論：感染症対策(千葉)			①p.166～183を講義前後に読むこと。		
4	国際看護の主要概念： 貧困と開発、プライマリヘルスケア、人間の安全保障(千葉)			①p.36～42を講義前後に読むこと。		
5	持続可能な開発目標(千葉)			①p.42～44を講義前後に読むこと。講義後には身の回りのSDGsに関連する取り組みを調べる。		
6	国際協力機関と協力の仕組み：国際機関・政府開発援助 開発途上国の保健・医療システム(千葉)			①p.76～84、p.88～94を講義前後に読むこと。		
7	国際協力機関と協力の仕組み：非政府組織(武田)			①p.84～85を講義前後に読むこと。講義後には国際NGOを1つ取り上げて活動内容、活動地域等をまとめる。		
8	国際看護学各論：リプロダクティブヘルス(千葉)			①p.140～164を講義前後に読むこと。		
9	国際看護学各論：子どもの健康(千葉)			①p.122～137を講義前後に読むこと。		
10	国際看護学各論：国際災害看護学、難民への支援(武田)			①p.192～223を講義前後に読むこと。		
11	グループワーク：世界の健康問題を考える			1～10回の内容を踏まえたグループワークのためこれまでの学びを復習して臨むこと。		
12	プレゼンテーション①：世界の健康問題を考える			授業で提示する。		
13	プレゼンテーション②：世界の健康問題を考える			授業で提示する。		
14	多文化共生看護学概論： 文化の理解とわが国の在留外国人の健康課題(千葉)			①p.46～73、p.226～240を講義前後に読むこと。		
15	看護師の国際移動、EPA/FTAの現状・課題、まとめ(千葉)			授業で提示する。		
使用テキスト	① 柳沢理子編著. 看護の統合と実践・国際看護学一 開発途上国への看護実践を踏まえて一. PILAR PERESS (最新版)					
参考図書	適宜紹介する。					
成績評価基準	試験70%、グループワーク(参画状況、プレゼンテーション内容、成果物)30%					